小域事例６

子どもから高齢者にわたる多世代交流の場づくり

～一宮町西部地区社会福祉協議会の取り組み～

基本データ

実施主体	西部地区社会福祉協議会（助成期間：平成 21 年度～23 年度）
地域の現状 （町内地区社協数　5）	房総半島九十九里浜の最南端に位置する町で、町の西部、旧農村・山村として営まれ、最近は東京圏への通勤者が多いエリア。自然環境に恵まれ、海抜 10m 以上の房総丘陵の東端に至る地域。人口 1,828 人、730 世帯、高齢化率は 33.0%、0-14 歳割合は 13.5%。（H30.4.1 時点）
参加した人	西部地区社協、区長、民生委員、子供会、小学校、市内企業、地域内住民ボランティア
話し合った内容	伝承、多世代交流
事業概要	いきいきサロン、救急医療情報キット配付、敬老のつどい、ニコニコ広場支援、友愛訪問等

1 地域福祉フォーラムに取り組んだきっかけ

茶話会を実施している中で、地域の方々と話し合いをし、地域にいる子どもに地域のことを知ってもらえるような取組みをしたいと考えているときに、町社協の呼びかけにより申請へとつながった。

2 活動の内容

１年目 (21 年度)	地区社協を中心に茶話会を実施し、地域の方々との交流を深める取り組みを行う。また、子どもに地域のことを知ってもらえるような取組の話し合いを進めた。
２年目 (22 年度)	１年目に引き続き、茶話会を実施するとともに、地域のことをよく知る方に協力をいただきながら、地域にいる子どもに地域のことを知ってもらえるような取組を具体的に実施するための話し合いを開催した。
３年目 (２３年度)	２年目に引き続き、話し合いをし、結果として、子どもやその親、地域の高齢者など多世代で交流できる場として、「ニコニコ広場」を８月から月１回、集会場のスペースを活用（無償提供）しながら開催。 「遊び」「学び」「実践」をテーマに、子どもたちの成長（郷土愛創出、社会性など）を醸成する活動（おやつづくりや餅つき、花壇整理等）を支援。
２４年度 以降～ 現在	助成期間終了後も「ニコニコ広場」を中核とし支援し、企業からの協賛金や地域住民からの寄付、地域にあるものを活用しつつ、新たに自主防災組織が参画する等、地域に根付いた活動を行っている。

3 地域福祉フォーラムの成果

地域に住む子どもへ地域のことを知ってほしいとの思いから、「ニコニコ広場」を開催したことにより、子ども同士、子どもと地区社協の顔の見える関係ができ、地域で会ったときに自然と「ニコニコの人だ～」とあいさつ等コミュニケーションを取る機会が増え、自然と地域を巻き込んだ子どもの見守り活動へとつながった。また、参加者が多世代であるため、参加する子どもたちの社会性やコミュニケーション力の成長が目に見えてわかるような状況となり、併せて地域に住む方々が自然と協力するような場となった。

4 課題や今後の展開

地域福祉フォーラムの助成期間終了後も、「ニコニコ広場」を中核として支援し、地域に住む子どもたちや参加する大人の楽しめる場として長く開催していく予定。

また、参加者が参加しやすいようにそれぞれが役割（例：流しそうめんで使用する竹の選定作業等）を持てる場として、さらに地域に根差した場の提供を行っていく。

5 これから地域福祉フォーラムを実施予定の地区の方へのメッセージ

地域にいる方々が持っている力を有効活用しながら、あれもこれもとならずに無理がないよう、また、実施する側が楽しめるようできる範囲でやることが大切。また、元々地域にある資源（産物）を活用し、自分たちだけでやるのではなく、色々な方に関わっていただきながら、息の長い活動をしていくことが重要。さらに活動を支えるリーダーを見つけていくことが、活動に良い影響を与えることができる。

6 考察

地域福祉フォーラム事業に申請・採択されたことを契機に、年齢の垣根を越え、多世代で参加できる場づくりを中心に活動を展開。郷土愛を育むことを目的とした活動ではあったが、地域内での支え合い・助け合いに自然とつながり、かねては地域内で顔の見える関係性が強くなったことから子どもの防犯対策にもなっている活動。さらに生産年齢層の参加もあり、子どもと高齢者だけでなく、全世代参加型の事業展開ができている点、地域にある資源を有効活用し、地域の良いところを最大限に引き出して運営していることは特筆すべき点だと考える。

【市町村社協の役割】
一宮町社協は、あくまで補助的な立ち位置であり、住民主体の活動となるよう心がけた。地区社協の方々に地域福祉フォーラムの実施についての事業理解を進めていくための説明を実施した。また、助成期間終了後は独自に助成している。





ニコニコ広場に子どもから大人まで参加している様子